これまでの主な八潮関連事業のご紹介

宇田川ゆきおが強力サポート

❶八潮北部振興～(仮称)外環八潮パーキングエリア周辺の整備ついて～

八潮の北部振興については、(仮称)外環八潮パーキングエリアと(仮称)外環八潮スマートインターチェンジの設置を中心としたまちづくりについて、かねてよりお話しをさせて頂いているところです。進捗状況としては、大山市長による着実な国との交渉により、(仮称)外環八潮スマートインターチェンジの事業化が決定されました。スマートインターチェンジが開通すれば、市内の皆様の利便性の向上はもとより、県東南部の新たな交通の要として物流をはじめ産業の活性化、命をつなぐ救急救命体制の強化などの効果が期待されます。

スマートインターチェンジと(仮称)外環八潮パーキングエリア事業を契機に八潮の北部地区に光をあてた事業展開については、今後とも、大山市長としっかりと連携し、市・県・国が一体となり、先端的な野心的な取り組みができるように地域の皆様や関係機関と連携をしながらあらゆる可能性を探ってまいります。この地区が国のモデル地区となるように強い決意をもって皆様とともに着実に前へ進めてまいります。

❷葛西用水の親水化事業

葛西用水親水化事業がH29年予算で決定されました。これにより、葛西用水の歩道の整備がなされ、朝夕はウオーキングを楽しむ方々、日中は子ども達の声が響きわたり、にぎわいをみせています。このように整備された空間は、八潮の特長である水と緑が調和し人と人とが触れ合う場所になりました。

また、八潮市の一戸一灯運動により葛西用水沿いのフェンスに市の事業によりソーラーライトが設置され防犯対策、地域の安心安全としても活用されており、県と市が一体となり八潮の地域資源を引き出した有効事例となりました。

八潮らしい自然と調和した憩いの空間をつくり「住みやすさナンバー1のまち」八潮にフィットしたまちづくりをこれからも進めてまいります。

❸県道草加三郷線西袋工区の整備事業(柳之宮橋の架替え)

この事業は、綾瀬川を渡河する柳之宮橋を含む延長約580m区間の現道を2車線から4車線に拡幅する事業であり、さらに八潮市が施工する土地区画整理事業として柳之宮橋から県道越谷八潮線までの約350m区間も併せて整備し、老朽化していた柳之宮橋の架替えも行うものです。

西袋にお住まいの方の利便性・安全性だけなく、草加三郷線は県東南部の新たな流れを呼び込む動線として産業の活性化が大いに期待できる路線です。柳之宮橋については、現在仮橋にて運用がされているところです。

架替えは5つのステップを踏んで行われており、現在は4つめのステップまできたところです。最後のステップは新しい橋の架替えが完了後、仮道路から完成道路への切り替えを段階的に行い、4車線道路が完成することで、令和10年の完成を予定しています。工事中はご不便をおかけしますが、何卒ご理解をいただき、完成後の大きな流れの変化に伴う地域の発展にしっかりコミットできるように力を注いでまいります。

❹大曽根交差点の右折レーンの設置

大曽根の交差点は、交通量の多い県道越谷八潮線(通称「産業道路」)につながる渋滞が起こりやすい地点であったため、大原方面から越谷八潮線への右折専用レーンを設置することで渋滞の緩和を図りました。また、商業施設や金融機関があるため歩行者も多い交差点ですので、歩道の整備を行い、歩行者の安全も確保することができました。こうして市内の渋滞緩和と交通安全の強化に資する交差点となりました。

また、人口が増加し、産業道路をはじめ交通量の多い八潮市においては、都県境という地理的特性もあり、警察力の向上は重要課題です。そのための警察署の誘致を市も熱心に取り組んでいます。この実現に向け、市ともしっかりとタッグを組んで、県に強く主張してまいります。

❺自転車歩行者道整備事業(県道越谷八潮線)

県道越谷八潮線(産業道路)は、工場等があり物流の大動脈の一つとして大型車をはじめ交通量の多い路線です。また、沿線には商業施設などもあり日常生活に必要な道路でもあります。そのため、車だけでなく自転車や歩行者の往来の多い道路であり交通事故の危険性が高い路線です。

交通事故リスクを軽減し、安全に安心して利用できるように自転車歩行者道の整備を現在行っています。車に乗る人も自転車に乗る人にも歩行者にも優しいまちづくりをこれからも取り組んでまいります。

ご意見をお寄せ下さい　宇田川ゆきお県政事務所　〒340-0801 埼玉県八潮市八條393　TEL.048-932-4055
FAX.048-934-7099　E-mail.contact@udagawayukio.com

情熱 責任 真摯 覚悟
埼玉県議会議員
宇田川ゆきお
県政報告
令和4年12月25日発行　12月号 Vol.20
発行:埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所　〒340-0801 埼玉県八潮市八條393　TEL.048-932-4055　FAX.048-934-7099

2023年に向かって 巻頭所感
政策を推進、全力で課題を解決!

危機に備え、社会・経済・命を守る

新型コロナウィルス発生が「政治」を問い直した!

新型コロナウイルスの感染拡大が確認されてから3年になろうとしています。未知の分野のウイルスであることから、感染の経緯・症状・治療・予防等への対応の方法が分からずパニック状態に陥りました。

中国で最初の症例が見つかり、その後、世界各国に広がったのものですが、世界中が今も苦慮しています。特に基礎疾患がある人は危険な状態になる可能性が高く、コロナウイルス感染者の病床確保が大きな問題になりました。

また、治療方法の確立と同時にワクチン接種を積極的に進め、変異株にも効果があるように4回・5回と回数を重ねています。これは、感染予防と感染症状を軽減する意味で成果が出てきています。ここへ来て第7波から第8波へ感染者の増加が危惧されていますが爆発的な数字にならない気配です。

一方でコロナにより日常生活が破壊され、あらゆるところで規制や行動制限がかかり、社会も経済も窮屈な状況において、可能な限り市民生活を守るための政策を実施してきているところです。

伝染病に対する予防・治療をはじめ経済対策に至るまで対応するのは政治であり、危機管理能力を発揮するのは自治体の重要な役割です。自治能力や政策遂行力が問われると言うのは、市民の命と生活を守る体制が整っているか否かが評価されるからです。

このような意味で政治の存在を再認識すべきなのです。社会の仕組みにおいて、社会運営の方向を決めることが政治だからです。

土を耕し、実りを得る…、その姿勢から学び、行動する

私は、八潮生まれの八潮育ちです。父は農業を営みながら市議会議員として活動し、母は父と共に「土」との営みを続けてきました。父母、そして地域の農家の方々の背中を見て育った私が学んだのは、作物(成果物)を実らせるための日々の努力と肥培管理の重要性でした。

市政・県政を農地に例えるなら、人々の求める地域社会を作るためには、肥料・水やり・整地・耕転・除草・害虫駆除などの管理をしなければならないと言うことです。人々の求める政策(作物)を植え、あらゆる政治手法(肥培管理)を駆使することなのです。

私は、八潮市選出の唯一の県議会議員として、日々、子育て行政、産業振興、ふるさと八潮の活力づくりやイメージアップなどを中心に全力で取り組んでいるところです。

地域の皆様の声を伺い、みなさまの願いを市政と連携、県政からバックアップし、かたちにするのが私の使命です。農業を通じて知った不断の努力、八潮の土を耕す意識の大切さを忘れずに、先見性を持ちながら、地域課題の解決に前進して参ります。

埼玉県議会議員
宇田川幸夫

【経　歴】●八潮市立八條中学校卒業●浦和実業学園高校～東京コミュニケーションアート専門学校卒●明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科修了MBA(経営学修士)●八潮市議会議員選挙にて初当選●平成21年、八潮市議会議員選挙にて二期目当選●平成27年、埼玉県議会議員選挙にて初当選●平成31年埼玉県議会議員選挙にて二期目当選●現在:県議会・自然再生・循環社会対策特別副委員長●議会運営副委員長、福祉保険医療委員長など歴任●所属団体:八潮市商工会青年部OB会、八潮市消防団、八條有志クラブ他

www.udagawayukio.com/

小倉まさのぶ・こども政策担当大臣と…

宇田川ゆきおの
政策テーマ
「子育て」

八潮は「子育て先進都市」になる！ 国、県、市の連携で実現へ

シリーズで宇田川ゆきお県議の政策テーマをご紹介。
第2回目は「子育て」を中心に取り上げます。
次号のテーマは「教育」です。

大臣との対談と決意

子育て世代の議員として皆さんのご意見をもとに最先端の子育て政策を！

先日、宇田川ゆきお県議は、小倉まさのぶ内閣府特命担当大臣（こども政策担当）を訪問し、大臣室で意見交換を行いました。小倉大臣は子育て・教育問題に精通しており、日銀出身で金融政策にも明るく、宇田川ゆきお県議と同じ40歳代、若手の政治家として問題意識を共有するなかで活発な議論が交わされました。

この場を通じて感じたことは、子育て世代の議員が少ないこと、さらにこの世代は第一線で仕事をするなかで、家庭においては子育てをしている方々が多いこと、その一方で積極的に政治に対して意見を上げにくい世代であることでした。そして若手議員が自らの経験や周りの声を聴き、その代言者として政策をつくっていくことが重要だということでした。

小倉大臣からも熱い激励を受け、宇田川ゆきお県議は、皆様の声を大切にし、子育てを取り巻く環境の変化を敏感に受け止め、最先端の情報や知見をもとに政策を進めていく決意を新たにしました。世界基準の政策を埼玉県が先頭に立って実行し、八潮市が「子育て先進都市」になるべく、これまで以上に精力的に取り組んでまいります。

子育て支援が日本の最大の課題

宇田川ゆきおの主張してきた埼玉県版ネウボラを拡充。子育ての負担軽減を図る！

厚労省から公表された人口動態統計速報によれば、今年の1月から9月までの出生数は59万9,636人であり、昨年同期間比マイナス4.9％となっています。これは、危機的な状況にあるといえ、このペースで推移すれば、今年は統計開始以来、初めて80万人を下回る可能性があります。

出生数の低下は、国力を衰退させることにつながると専門家も指摘しています。出生数の低下は様々な要因があると考えますが、国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生同行基本調査（夫婦調査）によると、「妻の年齢別にみた、理想の子供数を持たない理由」のどの年代のトップも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」となっており、妊娠から子育てまでの経済的な問題や核家族化や地域社会の在り方の変化もあり、妊娠や子育てに対する不安も一因となっているものと推察されます。

宇田川ゆきお県議は、県議1期目から埼玉県版ネウボラを主張するなど、一貫して妊娠から出産、子育てに注力してまいりました。妊娠から出産・子育てまでの身近な伴走型の相談支援と、経済的な支援を合わせたパッケージでの支援の必要性を訴えてきました。今後は相談支援と経済的な支援等をパッケージで実施することによって、相談機関へのアクセスをしやすくし、産前・産後ケアや一時預かり、家事支援サービスなども活用しやすくすることで、妊娠・出産・子育ての精神的・身体的・経済的な負担軽減を図ることを目指しています。

宇田川ゆきおの子育て支援の考え方

４種類の支援を核としてステージごとに対応。だれもが使いやすい支援へ！

宇田川ゆきお県議は、子育て支援について、子育て世帯目線で、だれもが使いやすい支援を、子育ての各ステージ（妊娠から出産の産前産後、子育て、就学前、就学後）に応じてすべきと主張します。支援内容としては、ベースとしての経済的支援、さらに個人の状況に応じた経済支援、教育支援、さらにこどもに応じた学習支援の4点を核に展開することを提案しています。

現役世代の子育て・教育に関する経済的負担軽減は、仕事との両立だけでなく、精神的にも開放され、豊かな子育て環境へとつながります。この循環を生み出すため、今後、予防・医療・介護・金融システムに焦点を当てた政策を考えています。

産前産後ケアについて

孤立しないことを第一に！ケアマネージャー的な仕組みの導入を目指す

出産前の精神的なサポートとあわせて、生み育てるための知識や情報等も十分得られる安心できる出産の体制の構築が必要です。さらに家族の形態変化への対応が重要です。今までは家族構成が3世代にわたり役割を分散することが出来ましたが、現世代では、一人ですべてを賄う状況であるため、買い物から、病院への移動、自分自身へのケアが行える支援を整えなければなりません。

小倉こども政策担当大臣から熱い激励を受ける！

出産については公的資金により経済的負担を最小限に軽減し、入院の期間は気持ちや体調、おむつや母乳等のサイクルが安定するまでの期間、入院期間を10日ほどにすべきと考えています。個人の現状に合わせ期間は延ばすことも必要ですが、母子父子の子育てにおける知識や情報もここで取得できるようにすべきです。

ここでも母子父子を一人にさせないための支援が必要で、個人に合わせたきめ細かい支援を助産師や子育てケアマネージャーのような1人に1人が相談できる体制の構築が不可欠です。高齢者におけるケアマネージャーが機能してきたように、産前産後ケアが機能し熟成されることで確立できると考えています。宇田川ゆきお県議は自治体の先行事例をもとに、その横展開を国と県がともにサポートできるよう予算化をダイナミックに働きかけてまいります。

就学前の重要性

まず、幼保の垣根を無くし、将来は幼児教育の義務化を目指していくべき！

就学前に関しては、保育園・幼稚園の垣根をなくし、その保育園・幼稚園の独自の教育や生活スタイルに合わせた選択がとれるようにすべきというのが宇田川ゆきお県議の持論です。

幼児教育はすべての子どもが受けられるよう義務化すべきと考えます。この時期の教育は就学した時の個人差をなくすためにもその子の能力や、特異性を早期に把握するためにも大変重要です。将来的には、幼児教育を選択してだれもが受けられるよう制度設計を訴えてまいります。

初等中等教育～起業家教育を基本に～

教育が国の活力を生む！先進的な教育カリキュラムを埼玉県から発信したい

まさにここからは世界に遅れをとってきた教育を実行させる中心課題です。宇田川ゆきお県議が以前から主張しているように、金融教育と起業家教育が重要です。この二つは義務教育でやらなくてはならないと強く感じています。その中でも起業家教育を基本とすべきです。

起業家教育には２つの要素があり、起業家を育てる教育と起業家の素養を養う教育です。後者の起業家の素養を養う教育を義務教育で行う必要があると捉えています。つまり、0から1を創り出す力、そして、目標を定めたらどのように達成することが出来るかを自分自身で考える力、論理的思考をここで訓練し身に付けることが極めて大切です。

社会的な課題や自分自身の課題を自ら見つけ、解決に導くことが、グローバル社会で生き抜き、海外で戦える力であり、日本に求められているものです。論理的思考と起業家の素養を身に付けていきながら、世界から後れをとっている金融教育を進めていくことは子どもたちのキャリア教育にも大きく寄与できるものと確信しています。

その動きを埼玉県から発信していくのが宇田川ゆきお県議の今の想いであり、活動のテーマです。

新型コロナの最新情報は
コチラから～ぜひご利用ください～
埼玉県LINE公式アカウント
埼玉県-新型コロナ対策
パーソナルサポート
まずは「友だち登録」から。
新型コロナウイルスに関する
情報をお知らせします。